



# EduCASのご案内

## EduCASは、

頸動脈ステント留置術を施行する際に必要な臨床およびデバイスに関する知識の習得をサポートする、  
ボストン・サイエンティフィックが提供する研修プログラムです。

以下、研修プログラムをご受講のうえ  
ボストン・サイエンティフィック社Carotid Solutionsをご使用ください。

	実施医*1	非実施医
① EduCAS Web Training		
デバイストレーニング(機器関連/CAS手順)	○	○
クリニカルトレーニング(血管解剖/脳卒中/CASマネジメント)	×	○
② EduCAS 講習		
製品説明(紹介)	○	○
アクリルモデルを用いたハンズオン	△	○
③ EduCAS Training		
症例見学・プレセプター	△	○*2
プロクター	△	△

○必須項目／△任意項目(要望に応じて実施)

\* 1: 他社プログラムは受講済み、ボストン・サイエンティフィック 社研修プログラムを終了していない医師のこと

\* 2: 症例見学またはプレセプターの受講は必須

①EduCAS Web Trainingの受講はこちらから  
<https://www.medithtec.com/bostonscientific/educas/>



※詳細につきましては、担当営業までお問い合わせください

# Carotid Solutions

## 施設基準

設備機器：手術室または血管撮影室に適切な血管撮影装置が常設されていること

治療環境：脳卒中治療医<sup>[註1]</sup>及び循環器科医の迅速な対応が常時得られること

## 医師基準

基礎経験：選択的頸動脈撮影を含む脳血管造影を 30 症例以上経験していること、かつ以下のいずれかの条件を満たすこと

1. 日本脳神経血管内治療学会専門医に準じる脳血管内治療経験を有し、頸動脈ステント留置術を助手として 10 件以上経験していること
2. 冠動脈ステント留置術を術者として 200 例以上経験していること
3. 末梢血管ステント留置術を術者または助手として 50 例以上経験していること

※研修義務：対象医療機器の研修プログラム<sup>[註2]</sup>を修了していること

[註1]脳卒中治療医とは、脳卒中の治療経験豊富な、日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医のことを使う。

[註2]実施医となるためには、ステントシステムおよび遠位塞栓防止機器の研修プログラムをそれぞれ修了していることを要する。

関連11学会承認 頸動脈ステント留置術実施基準(2020年12月時点)

## 対象患者

外科的治療(頸動脈内膜剥離術・CEA)が困難な症例で、かつ、標的血管径が 4mm から 9mm の範囲にあり、超音波検査又は血管造影検査等にて総頸動脈または内頸動脈の狭窄率が症候性の場合50%以上、無症候性の場合 80% 以上の狭窄が認められる患者。

**Boston**  
**Scientific**  
Advancing science for life™